

2015年10月27日

地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム2015 in 九州  
～地域公共交通及びまちづくりにおける住民・事業者の参画について～

# 柏原三丁目の取り組み

～路線バス乗り入れとバス友の誕生～

福岡市南区 柏原三丁目町内会 会長 / 大淵 浩一  
西日本鉄道株式会社 自動車事業本部営業部 南営業課 課長 / 宮崎 泰

# 柏原三丁目の紹介

# □ 柏原三丁目の紹介 ①



# □ 柏原三丁目の紹介 ②



# コミュニティ交通検討の 経緯

# □コミュニティ交通検討の経緯 ①

- 平成13年ごろ 柏原三丁目地区において、「町内バス」運行の検討を開始
- 平成19年8月 福岡市に対して、バス運行に関する陳情  
※同時期に西鉄に対しても要望を行なう
- 平成22年3月 福岡市「公共交通空白地等及び移動制約者に係る生活交通の確保に関する条例」制定。
- 平成24年 柏原校区自治協議会が主体となり「校区コミュニティカー検討委員会」設立
- 平成24年10月 青パト利用やジャンボタクシーなどいくつかの選択肢の中から、「西鉄バス乗り入れ」で意見集約。

## □コミュニティ交通検討の経緯 ②

- 平成24年12月 地域住民によるアンケート調査実施  
⇒72%の住人が「利用する」と回答。
- 平成25年7月 住民意見交換会開催  
**住民同士の合意形成を図った。**
- 平成25年9月 地区内バス運行試験 (2回実施)  
(西鉄、福岡市、南警察署、校区自治協議会)  
※実際にバスを走らせてみると  
様々な課題が発覚した。  
**⇒ 翌年4月の試験運行開始を目指して  
関係各所が課題解決にあたることで  
合意。**  
**⇒ 福岡市の補助金も様々な活用。**

# 乗り入れまでの課題解決



# □ 乗り入れまでの課題解決 ①

- ◎ 停止線改良（古野交差点、日時計の丘前）
- ◎ 路側帯の設置、電柱移設
- ◎ 道路わきの水路の蓋かけ・水路フェンスの改良
- ◎ 車歩道縁石の改良
- ◎ 道路の舗装
- ◎ カーブミラーの設置

# □ 乗り入れまでの課題解決 ②

## ◎ 駐車車両対策



路上駐車があると  
バスの運行に支障が出るポイントに、  
立て看板を設置。【合計15か所】

# □平成26年4月1日 試験運行開始。

## 「最寄りの停留所遠い」住民が誘致



新しく設置した「北公園前」バス停を利用する地元住民

# 路線バスがやってくる

## 福岡市南区・柏原3丁目

福岡市南区の柏原校区自治協議会が、最寄りのバス停が不便で、高齢化も進む同区柏原3丁目に、市の支援を受け、西鉄バスの新路線を誘致し、4月から試験運行を始めた。地域の要望で公共交通機関の誘致を可能とするため、市が2012年に設けた「生活交通支援事業」の補助金適用第1号。柏原地区での取り組みは、今後、高齢化も懸念される福岡市の社会実験として注目される。

### 西鉄が試験運行開始 高齢者の生活の足に

西鉄バスの検原、柏原西宮 住宅地として開発が進んだ。業所を結ぶ既存の路線に、柏原3丁目を経由する便を新設し「北公園前」と「柏原3丁目」の二つのバス停を設けた。初乗り料金は170円。試験運行は9月末までで平日16便、土曜6便。日祝日は運行しない。

住民の中には、運転免許証を返納する高齢者も多いが、500以上離れた最寄りの「古野」バス停までは、高低差40分の坂を上り下りしなければならない。

西鉄は試験運行終了後、需要と採算性を見極め、本格運行の是非を判断する。バスを時々利用するという徳永正枝さん(77)は「今はミニバイクに乗っているが、いつまで乗れるか不安。ありがたい取り組み」と話している。

西鉄によると、採算ラインは1日の利用者80人以上。大淵会長たちは公民館サークルの開始時間をバスの運行に合わせるなど、地域ぐるみで需要喚起を図っている。

(瀧池佐和子)

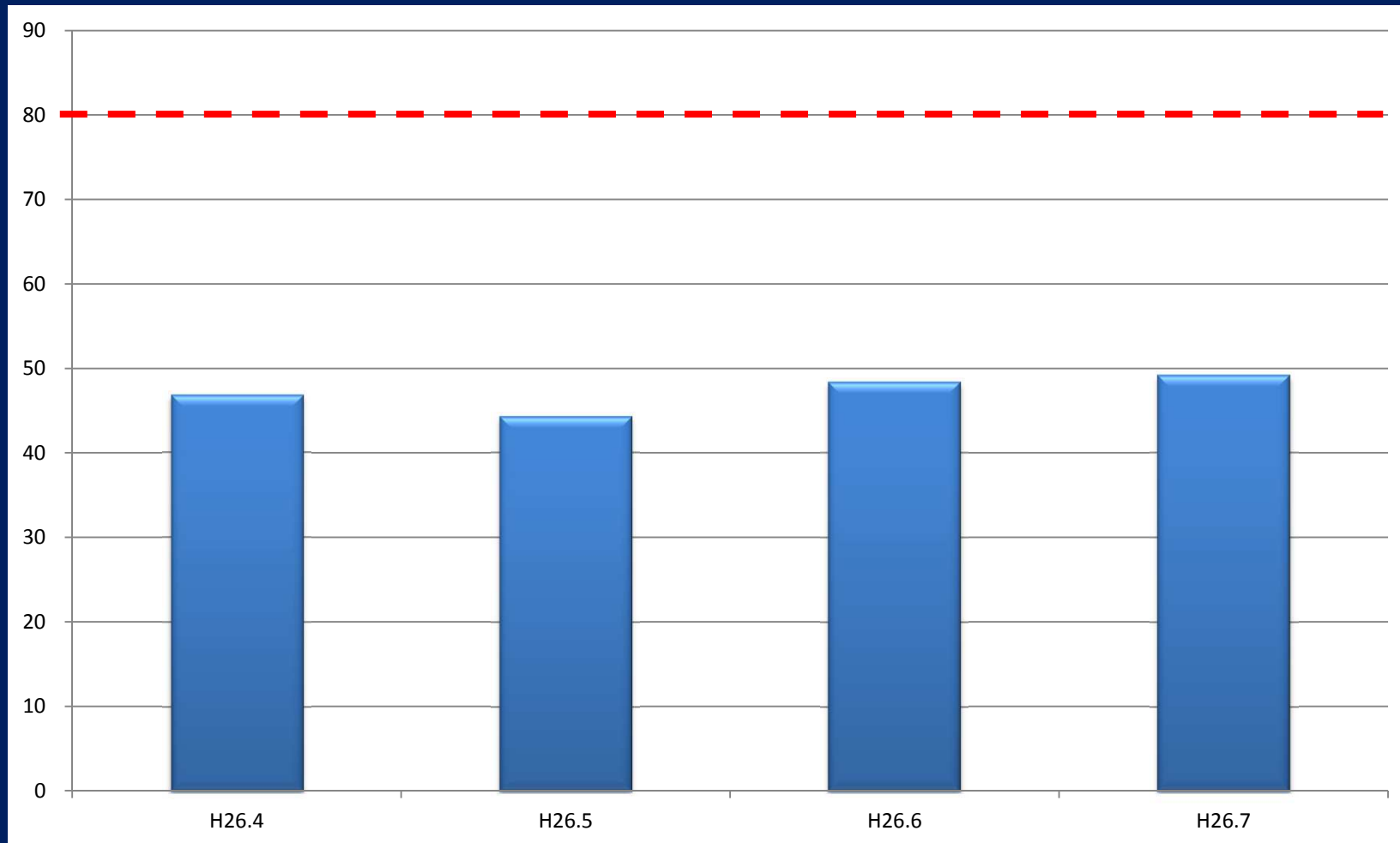


新設バス停  
新路線(既存路線)

柏原3丁目の大淵浩一町内会長(66)らが中心となり、市に補助金申請した。市公共交通推進課によると、生活交通支援事業に適用すると、バスの使用目的や時間帯を尋ねるアンケートなど運行計画を立てる際にかかった経費を2年間で最大100万円補助するほか、最大6カ月の試験運行で生じた赤字を300万円まで補填する。

**本格運行に向けて**

# □乗車人員推移（H26年4月～7月）



●平日1日あたり利用者推移（人）

# □ 利用促進策 ①

## ◎ バス通信の発行

柏原三丁目バス通信 No.3  
平成26年11月27日  
会長 大淵 浩一

### バス試行運行に関するアンケート結果

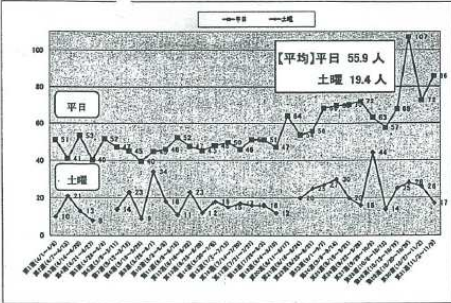
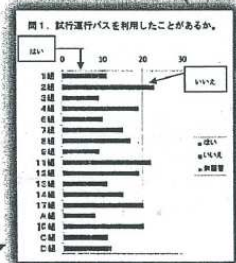
実施期間 8月27日～9月7日、回答票数 265/366 回答率 72%

- 問1. 試行運行バスを利用したことがあるか。 52.2%
- 問3. 運行して良かった点は。 バス停が近くなった
- 問4. 利用しない理由、利用回数が増えない理由は。(上位3つ)
- 他の交通手段の方が便利だから
  - 外出したい時間帯の便が少ない
  - 他のバスへの乗り継ぎが不便
- ※一部抜粋、詳細は回答します。

早いもので師走を迎えようとしています。試行運行も9か月目に入り毎週末に西鉄から送付される乗車実績は、4月当初よりも大幅に伸びています。これも利用される皆さんのご協力のおかげです。

アンケートの自由記述欄には、増設の小型化、都心部への直行便の行、乗り継ぎのためのダイヤ調整、回ルートの変更、日祝日の運行等)要望が出ていました。

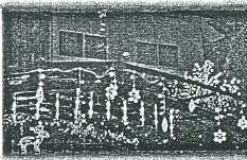
要望の多い南公園下までの巡回ルートがベストと思います。今回の試行運行は松原営業所から柏原営業所に回している一部の便を柏原三丁目経由にしたものです。そのため大型バスとなっています。外回りコースは本格運行の課題です。



### 往復ともバス利用 11月25日(火)シニアクラブ柏陽会日帰りツアー

新三浦酒店、集合・解散の柏原三丁目シニアクラブ柏陽会の日帰りツアーが行われました。参加者は44名で、清水寺(瀬高町)⇒花むら(佐賀県小城市)⇒佐賀城本丸歴史館(佐賀市)に行ってきました。紅葉と美味しいランチ、そして佐賀の歴史に触れ、とのでた楽しい一日でした。3丁目内のバス停は朝8時前、そして4時頃は参りていっばいでした。

バスに乗って土谷さん宅のイルミネーション見学へ！！  
(北公園バス停を降りて東方向、1つ目角を右折7軒目4組)  
去年よりバージョンアップされているそうです。  
「見に来たと、ピンポイントで……」



会長、副会長が作成を手掛け、バス路線の維持を「自分ゴト」に感じてもらうように、発行を続けた。

本格運行決定後も発行は続き、現在8号まで発行されている。

### もっとバスの利用を！ 1日1世帯1回の利用が本格運行へつながる



柏原三丁目内へのバス乗り入れの試行運行にご協力いただきありがとうございます。4月1日の乗り入れから5ヶ月が経過しました。しかし、バス運行の走行路の安全面はクリアできては西鉄の採算ライン(1台当たり5人)に満たず約6割の現状です。そのため10月からの本格運行には至っていません。西鉄からは非公式に試行運行を来春3月まで半年間延長したいという回答を得ています。来春4月からの本格運行につながるよう柏原校区をあげて取り組みをすすめています。

マイカーのない私たちは、今までは行きは歩き、帰りはタクシーが多かったが、バス導入後、行きも帰りも時間に合わせてバスを利用している。タクシー利用もあがるが、以前に比べ非常に助かっている。 9組 泉野さん

柏原公民館のダンス競技サークルの往復に利用している。3丁目からは17名のメンバーが毎週利用、本格運行になることを楽しみにしている。 10組 東次さん

行きは北公園前7時50分の松原行に乗り、帰りは松原営業所18時50分発の柏原行を利用している。最近距離を縮め、坂道を歩きやすくなるのが嬉しかったので大変助かっている。今までは気が付かなかった、バスの中からの沿線の風景や状態がよく見え、気分を新たにしている。また、乗り合わせた方との面談もでき挨拶を交わすようになった。乗車される方が少ないので、たくさんの方々に利用していただくともっと知り合いが増えると思う。バスの運行をもっとしなやかにしてほしい。 1組 永松さん

- ポプラバス、本の花ガルデン、マルキョウ、病院などに使っています。バスの中が3丁目の方々の知り合いの場になっています。バスが少なくなると困ります。 14組 葉さん
- 通勤のため毎日松原営業所から柏原三丁目間を利用している。より坂なので重い荷物や天候の悪いときは助かっている。できるなら17時台のバスがあると尚一層ありがたい。 16組 西村さん
- 松原営業所で乗り換えて毎日小笠方面へ通勤。nimocaカードで乗り継ぎ割引が利用できて経済的。帰りバスを降りてから下り坂でとても楽。北公園→柏原三丁目間の車窓よりの福原市内の眺望がすばらしい。 柏原一丁目2区小川さん
- 会社の帰りにバスに乗っている。夜道は暗くて怖かったがバスに乗れば安心して帰宅できる。 8組 藤井さん

三丁目の皆さん、本格運行には今まで一度も利用されていない方々の乗車がキープポイントです。高齢化がすすみ、車を手離す人も増えてくるなか、住民の足としてのバスの利便性が一層高まってきています。試行運行のままで乗り入れが中止になれば3丁目内にバスが入ってくることは当分の間ありません。

今までバスを利用されている方は引き続きご利用を、利用されたことなかった方は少なくとも一度は三丁目内のバス乗車体験を味わってみてください。

平成26年8月27日  
柏原三丁目町内会 会長 大淵 浩一  
14

## □利用促進策 ②

- ◎ **公民館行事など、イベントのスケジュールを、行き・帰りにバスを利用できる時間に変更。**

地域の公民館で行われているカルチャー教室や、定期的に行っている登山イベント等を、運行時刻にあわせて開催。

- ◎ **緊急決起大会の開催** (10月21日)

思うように乗客数が伸びない現状を伝え聞いた主要メンバーがバス利用促進に向けた緊急決起大会を開催。  
北公園に100名近い住民が集結した。

- ◎ **バス友の活動**

路線存続を願う有志が毎朝バスに乗車（詳細は後述）

## □利用促進策 ③

### ◎ バス利用促進チラシを南主管営業所（当時）のスタッフが、全戸にポスティング（計5回）

- ※移動「目的」と移動手段についての「選択肢」の情報提供
- ※業者任せではなく6名のスタッフ全員で手分けして実施

### ◎ 全戸アンケートの実施（8月）

- ※結果を乗車率アップに活用（潜在需要の掘り起こし）
- ※集計は福岡市が担当し、西鉄と主要メンバーが住民に働きかけ

### ◎ 柏原三丁目住民を対象としたバスの日イベントを開催（9月20日実施）

- ※西鉄バスへの理解促進と「自分ゴト」化を図る  
（文句を言う人は、実際には使っていないことがほとんど）



# □乗車人員推移（H26年4月～11月）



●平日1日あたり利用者推移（人）

# □ 本格運行決定！



住民の誘致活動を受け、福岡市南区柏原3丁目にて試験運行していた西日本鉄道（福岡市）の路線バスについて、西鉄は26日、4月から本格運行

## 柏原三丁目線が本格運行

すると発表した。採算ラインとされる乗客数1日80人にわずかに届かないものの、西鉄は今後の工夫で採算が取れると判断した。人口の約4割が高齢者という地区で、生活の

### 地域の努力奏功 西鉄バス 4月から

足を確保するために取り組んだ熱心な活動が実を結んだ。高齢化の進展で公共交通機関の重要性が増す中、成功モデルを示した。本格運行となるのは、松原

と柏原の両営業所をつなぐ既存路線に「柏原三丁目」バス停を経由する路線。西鉄は、試験運行時の平日16便、土曜日6便、初乗り運賃170円は変更しないが、利用者の利

利用促進に取り組んだ。同11月に初めて採算ラインを超える、以降利用者は1日70人程度で推移した。柏原地区での取り組みについて西鉄は「地域ぐるみが奏功した」と分析している。同地区では運転免許を返納する高齢者も増えてきており、柏原3丁目の大淵浩一町内会長(67)は「他県から視察もあつた。数々の努力が実を結び、みんな本当に喜んでい

る」と話している。  
(鴻池佐和子)

**なぜ成功したのか？**

# □ 本格運行に至ったポイント

## その1. 住民の熱意

コミュニティバスの導入は、  
高齢化を迎えた地区の、10年来の悲願。

バス乗り入れ実現とその運行継続のために、  
ありとあらゆることを、  
あきらめずに実行に移した。

「意見は言うけど、利用はしていない」人を  
巻き込むことに成功し、  
結果的に、住民全員の運動になった。

# □ 本格運行に至ったポイント

## その2. 共通の理解

地域住民と事業者の双方が、相手に過度に依存することなく、自分達の出来る事にきちんと取り組んだ。

情報交換・意見収集を、自治体も含めた三者が積極的かつ定期的に行なった。

お互いが顔の見える付き合いをすることで、地域住民の「最適な運行計画」に対する理解が進み、事業者と地域住民の距離も近くなった。

## □ 本格運行に至ったポイント

### その3. 行政のバックアップ

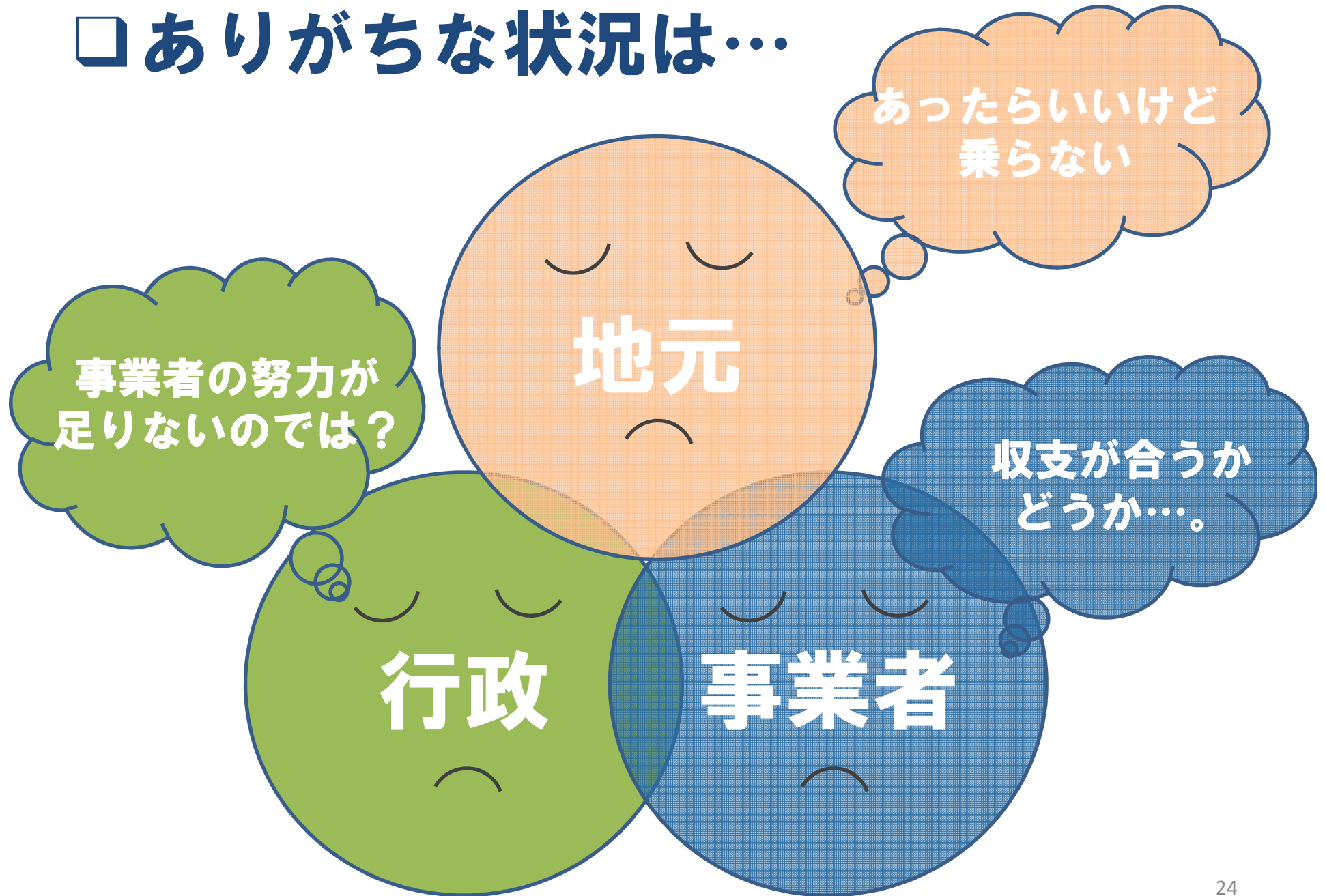
条例制定と、条例に基づいた補助金の交付。

他都市事例視察など、ノウハウの提供。

補助金期間(H26.4~9)が終了して以降も  
利用促進の会議に担当職員が出席するなど、  
サポートを継続してくれている。

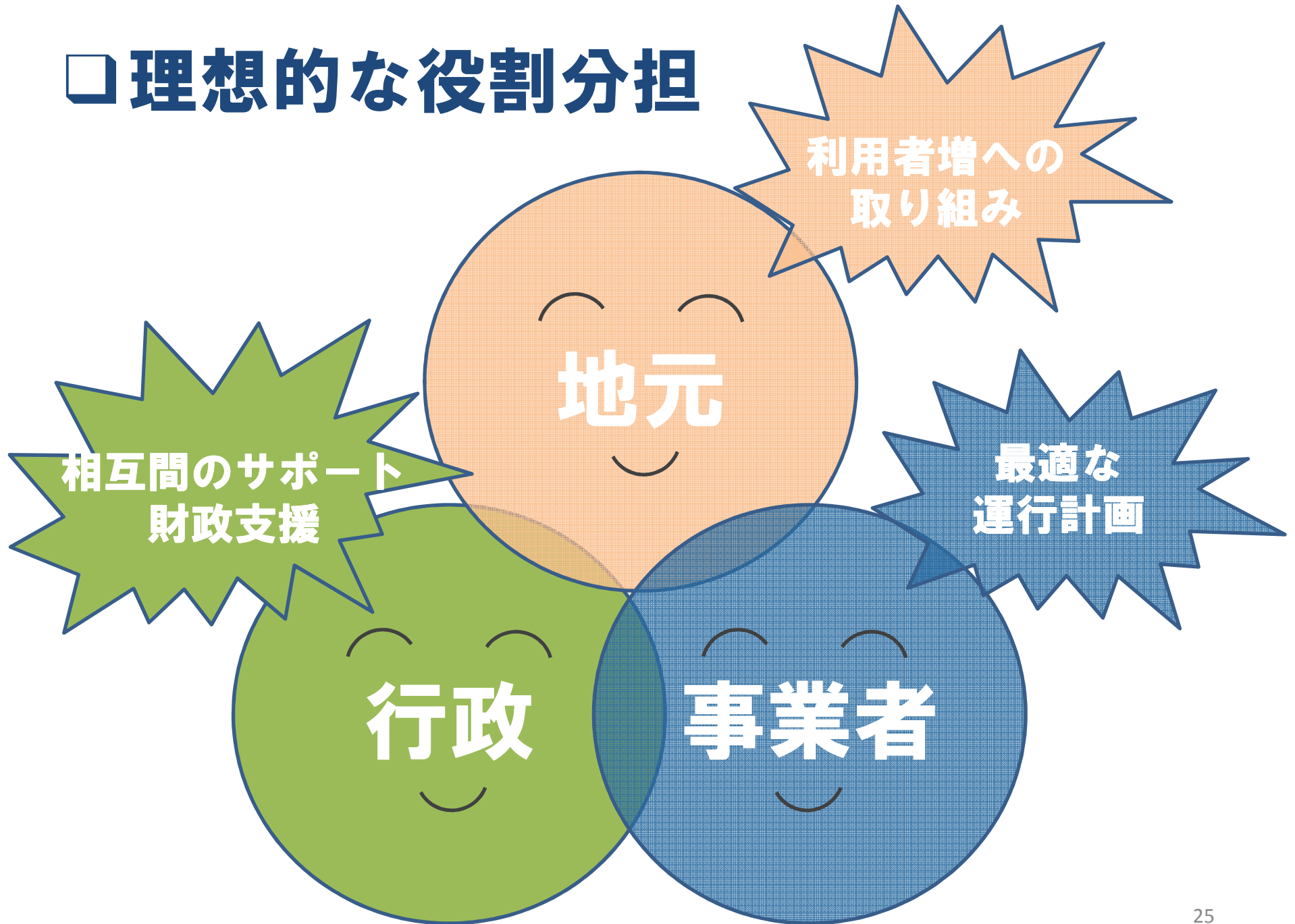
まとめ。

# □ありがちな状況は…





# □理想的な役割分担



# □成功の三要素



もうひとつ、  
大事なこと。

# 「バス友」の誕生。

バス友とは？

柏原三丁目エリアに新設された二つのバス停間で、  
65歳以上路線バス乗り放題定期券「グランドパス65」や  
福岡市発行の「福祉パス」などを最大限活用して、  
毎朝バスに乗っている、有志のあつまり。

## □ 想定しなかった副産物

最初は乗降客数を増やすための取り組みだったが…。

1. これまで挨拶したこともなかった人と、知り合いになることが出来た。
2. バス停まで毎朝歩くので、足腰が強くなるなど健康状態が良くなった。
3. 日々、お互いの確認・声かけをするようになった。

**地域の足（公共交通）を守ろうという情熱が、まちづくり・コミュニティ形成にも波及した。**

## □ 今後の課題

◎ **三者で問題意識を共有し続ける。**

(地域・事業者・自治体)

◎ **収益の確保。**

(利用者数増・運営効率化)

◎ **実現可能な方法で、利便性向上を図る。**

(運行時刻・便数、運用形態・運行ルート等)



ご清聴ありがとうございました。